J. Michael

クラリネット

取扱説明書

J. Michael

輸入総発売元

マックコーポレーション株式会社

〒451-0071　名古屋市西区鳥見町1-18-1
TEL.052-528-5870　FAX.052-528-5878

www.maccorp.co.jp

安全上のご注意	2
ご用意いただくもの	3
各部名称	3
演奏前の準備	4〜7
1. 本体の組み立て	4〜5
2. マウスピースの組み立て	6
3. 楽器の置き方	6
4. 楽器の構え方	7
5. チューニング	7
演奏後のお手入れ	8〜12
1. マウスピースのお手入れ	8
2. 本体のお手入れ	8〜10
3. タンポのお手入れ	11
4. 楽器表面のお手入れ	12
クラリネットのよくある質問	13〜15

この度は、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
本製品をご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性質等を十分にご理解いただきますようお願いいたします。

安全上のご注意

●オイルや小さな部品類をお子様が口にしないよう、ご注意ください。

●ぶつけたり、落下や転倒によって変形する恐れがあります。外観を損なうだけでなく、演奏に支障をきたす恐れがあります。取り扱いには十分ご注意ください。

●楽器を火気に近づけないでください。
火災やけがの原因となることがあります。

●楽器を投げたり振り回したりしないでください。部品が抜け飛んだり、楽器の一部が当たると危険です。

●調整、修理が出来なくなる恐れがありますので改造はおやめください。
補償の対象外となります。

●やむを得ず先端が尖った部位がございます。
取り扱いの際には十分ご注意ください。

木製管体に関する使用上の注意

木製製品は金属・プラスチック製品に比べ温度や湿度の変化を受けやすい性質をもっています。特に急激な温度の変化や湿度の変化で管体が膨張・収縮し、管体がひび割れたり、キイの動作不良を起こすことがあります。取り扱い時には十分ご注意ください。

●急激な温度・湿度の変化が管体のひび割れなどの原因になることがあります。楽器に息を吹き込む前に、まず楽器を室温で慣らしてください。その後手のひらで包むようにして楽器を温めてください。その後、息を吹き込んでください。

●使いはじめの2ヶ月は長時間の演奏は避けてください。最初の1週間は1日２０分程度の使用にとどめ、徐々に慣らしてください。管体のひび割れなどの原因になります。

●演奏の合間にも、スワブでこまめに管内の水分を取り除くよう心掛けてください。楽器を置く際は音孔面が下側にならないように置いてください。音孔内部に水分がたまるのを防ぐことができます。

●木の膨張のため使用後に接合部がきつくなり抜けなくなることがあります。怪我や楽器の破損の原因となりますので、無理に抜こうとせず修理・調整へ出してください。

●使用後は必ず管内の水分を拭き取ってください。音孔に息を吹きかけるなどして、音孔内部にたまった水分を吹き飛ばしてからスワブなどで管内の水分を取り除いてください。接合部の水分も取り除いてください。

ご用意いただくもの

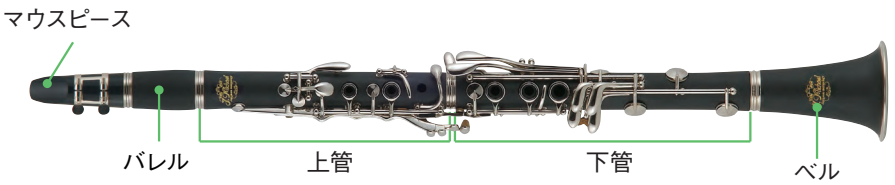
必要なもの

●**コルクグリス**	接合部に塗ることで抜き差ししやすくなります。
●**スワブ**	管内にたまった水分を取り除きます。
●**クリーニングクロス**	管体表面の汚れを拭きます。
●**クリーニングペーパー**	タンポと音孔の間にたまった水分を取り除きます。
●**ガーゼ**	水分やグリスを拭き取ります。

あったら便利なメンテナンス用品

●**リードケース**	収納時、リードの変形を防止できます。

各部の名称



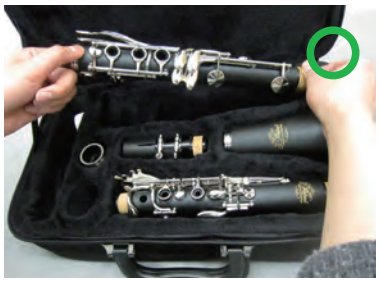
演奏前の準備

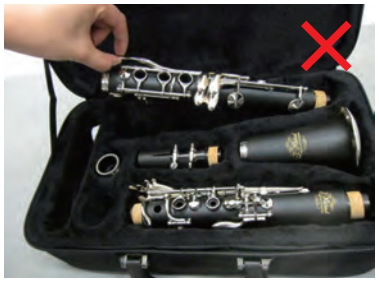
1 本体の組み立て

注意!

楽器を取り扱う際はキイに無理な力がかからないように注意してください。また、楽器をぶつけたり落としたり乱暴に扱うと音が出なくなることがありますので、十分気を付けてください。

1 本体をケースから取り出します。キイやパイプを持たないでください。





2 接合部に薄くコルクグリスを塗ります。

※木製管体の場合、吹奏時の水分により木が膨張し接合部がはずれなくなることがあります。予防のため、全ての接合部の差し込む側全体と受け側全体に薄くコルクグリスを塗ってください。

3 バレルと上管を組み立てます。
右手にバレル、左手に上管を持ちます。
少し回しながら差し込みます。

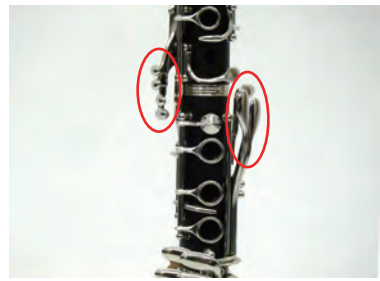
4 ベルと下管を組み立てます。
右手にベル、左手に下管を持ちます。
少し回しながら差し込みます。

5 下管と上管を組み立てます。
右手に下管、左手に上管を持ちます。その時、連携部のキイどうしがぶつからないようにするため、必ず左手中指のキイを押さえてください。

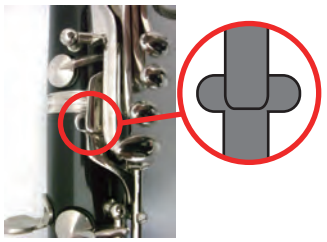
キイを押さえると、
連結部が上がる。

キイを押さえないと、
連結部がぶつかる。

下管と上管を少し回しながら差し込みます。
その際、大きく回し過ぎて右側の図の丸印のキイどうしがぶつからないようにしてください。
キイが曲がると急に音が出なくなったり、キイが動かなくなります。



下管と上管には1ヶ所キイの連結部があります。
組み立てたあと、その連結部が右図の位置になるようにしてください。



2 マウスピースの組み立て

1 マウスピースからマウスピースキャップ、リガチャー、リードを外します。

2 マウスピースとバレルを組み立てます。
マウスピースの向きが右図の向きになるよう差し込みます。

3 リードを水でほどよく湿らせます。
リガチャーのネジを緩めてからマウスピースにはめ、上からリードを差し込みます。

4 リードの位置がマウスピースの上端よりほんの少し下になるようにしながらリガチャーのネジを締めて固定します。

5 リードとマウスピースの先端にあたらないようにマウスピースキャップをはめます。

注意！

リードの先端は非常に薄く簡単に割れてしまい、「音がでにくくなる」「音に雑音が入る」などの原因となります。取り扱いには十分ご注意ください。

3 楽器の置き方

●なるべくキイの負担にならない向きに置きましょう。

●楽器を置くときは、管内にたまった水分をスワブで取り除いてから置いてください。音孔に水分がたまり、音が出なくなることがあります。

4 楽器の構え方

右手で下管、左手で上管を持ちます。

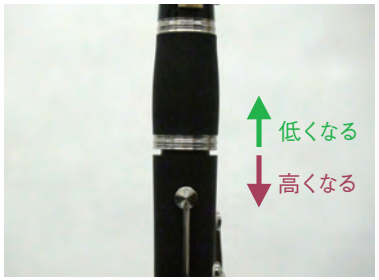
吹奏時の注意！

吹奏すると管内に水分がたまるので、こまめにスワブを通すようにしてください。

スワブの通し方は、9ページの「スワブを通す」をご参照ください。

5 チューニング

チューニングはバレルの抜き具合で行います。
チューニングは温度の影響を受けやすいので、管体を十分温めてから行ってください。



注意！ 木製管体の場合

急激な温度・湿度の変化が管体のひび割れなどの原因になることがあります。楽器に息を吹き込む前に、まず楽器を室温で慣らしてください。その後手のひらで包むようにして楽器を温めてください。その後、息を吹き込んでください。

演奏後のお手入れ

注意！

楽器を取り扱う際はキイに無理な力がかからないように注意してください。また、楽器をぶつけたり落としたり乱暴に扱うと音が出なくなることがありますので、十分気を付けてください。

注意！

木製管体の場合、吹奏時の水分により木が膨張し接合部がはずれなくなることがあります。怪我や楽器が破損する恐れがありますので、無理に引き抜こうとせず修理・調整へお出しください。

1 マウスピースのお手入れ

1 マウスピースからマウスピースキャップ、リガチャー、リードを外します。
リードは表面の水分を拭き取りしまいます。

2 マウスピースをバレルから外します。

注意！ 水分を吸わなくなるので、楽器本体に使うスワブでコルクグリスを拭き取らないでください。

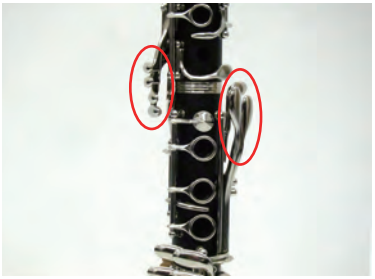
3 マウスピースの接合部の水分とコルクグリスをガーゼで拭き取ります。
マウスピース内部の水分も別のガーゼで拭き取ってください

4 マウスピースにリガチャー、キャップをはめてケースにしまいます。

2 本体のお手入れ

1 下管と上管を外します。
右手に下管、左手に上管を持ちます。
その時、連携部のキイどうしがぶつからないようにするため、必ず左手中指のキイを押さえてください。

下管と上管を左右交互に少し回しながら抜き取ります。
その際、大きく回し過ぎて右側の図の丸印のキイどうしがぶつからないようにしてください。
キイが曲がると急に音が出なくなったり、キイが動かなくなります。



2 管内にスワブを通します。

注意！ スワブは必ず広げてから使ってください。丸めた（重なった）状態で使うと管の内側で引っかかり抜けなくなります。
スワブが途中で引っかかり抜けなくなった場合は無理に引き抜こうとせず、反対の方向から引き抜いてください。それでも抜けない場合は修理に出しましょう。

上管の内側には金属のチューブが飛び出ているためスワブが特に引っかかりやすい構造になっています。万が一、引っかかった場合に、反対方向から引き抜きやすいので、必ずバレル側からスワブを通してください。

上管にスワブを通します。

下管にスワブを通します。

3 バレルと上管を外します。
右手でバレル、左手で上管を持ちます。
少し回しながら抜き取ります。

4 ベルと下管を外します。
右手でベル、左手で下管を持ちます。
少し回しながら抜き取ります。

5 それぞれの接合部の差し込む側と受け側の水分とコルクグリスをガーゼで拭き取ります。

3 タンポの手入れ

注意！

演奏後は、タンポと音孔の間の水分をできるだけ取り除きましょう。
タンポは水分の影響を受けやすいため、メンテナンスを怠ると劣化の原因になります。

1 タンポと音孔の間に残っている水分を取り除きます。

キイを開き、クリーニングペーパーを挟みます。
もう一度キイを開き、クリーニングペーパーを抜き取ります。
一度で水分を取り除けない場合は、乾いた部分を使用し数回繰り返します。

注意！

キイを閉じた状態でクリーニングペーパーを引き抜かないでください。クリーニングペーパーが破れて取れなくなったり、タンポの表面が傷む原因になります。

特にクローズドキイは水分がたまりやすいので注意して下さい。
バレルに近いキイほど水分がたまりやすいのでチェックしましょう。

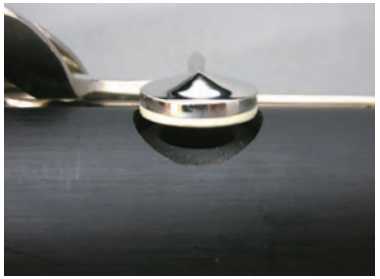
オープンキイ（常に開いているキイ）

クローズドキイ（常に閉じているキイ）

3 楽器表面のお手入れ

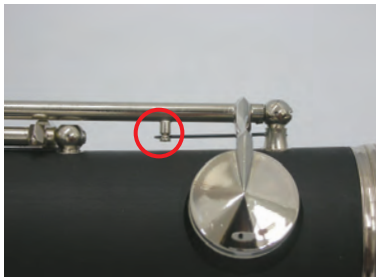
クリーニングクロスで本体の汚れを拭き取りましょう。

注意！ タンポの側面にクロスが当たらないよう注意してください。タンポが痛む原因になります。



注意！ バネの先端が尖っているため、けがをしないよう注意してください。

注意！ クロスにバネやコルクが引っかかり外れてしまうことがあるので、拭き取る際は注意してください。



保管上の注意

- ケースに収めた状態で保管しましょう。
- 車の中など高音になりやすい場所や、湿度が極端に高い場所では保管しないでください。
- ケースを倒したり、ぶつけるなど強い衝撃が加わると中の楽器が壊れる場合があります。
- カビの発生やタンポの虫食いを防止するため、長期間楽器を使用しない場合はケース内に乾燥剤を入れることをお勧めします。

クラリネットの よくある質問

マイケルくんの管楽器 Q&A

楽器が壊れちゃったかも？！
こんなときはどうしたらいいの？！
あなたの疑問、マイケルくんが解決します☆

音がおかしくなった、出ない音、出にくい音がある

リードの状態はよいですか？	リードが乾燥しているとうまく振動せず、音が出ないことがあります。演奏前には水でほどよく湿らせてからマウスピースにセットしましょう。また、休憩のときなどはマウスピースキャップをしておくとよいでしょう。先端が欠けたリードは、音が出にくくなったりノイズの原因になることがあります。
キイ、タンポの状態は正常ですか？	キイのゆがみ、キイ同士のバランスの崩れ、タンポの劣化、コルクの劣化など様々な原因により、タンポが音孔をうまくふさいでいない状態になると音が出なくなったり、音抜け、音程が悪くなります。この場合は修理に出しましょう。
穴をきちんとふさげていますか？	クラリネットは自分の指で直接穴をふさぐ箇所があります。とくに右手の薬指はきちんと押さえているつもりでも、わずかに隙間ができていることがあります。
音孔に水分がたまっていませんか？	吹奏中に急に音が出なくなった場合、音孔にたまった水分が原因で起こることがあります。その場合該当するキイを開いて息で水分を飛ばし、クリーニングペーパーで水分を取り除いてください。 こまめにスワブを通すことで予防できます。

キイの動きが悪くなった

バネは外れていませんか？	管体にはいくつもの針バネがかかっています。お手入れのときにクロスでひっかけてしまうなど、バネが外れてしまうことがあります。
	バネが劣化して折れたり、また、バネが刺さっている支柱の穴が広がって抜けてしまったりすることもあります。この場合は修理に出しましょう。
楽器本体を落としたり ぶつけたりしませんでしたか？	キイの部分をぶつけて曲げてしまったり、管体をぶつけてしまってゆがみが起きたりすると、キイの動きが悪くなることがあります。この場合は修理に出しましょう。
	ケースの中に楽譜のファイルなどを一緒に入れると、気づかないうちにキイを圧迫し曲がってしまうことがあります。ケース内側の小物入れに収納できる物以外は、入れないでください。

キイを動かすとカチャカチャと異音がする。

コルクなどのパーツが 欠損・消耗していませんか？	キイの足などについているコルクが欠損・消耗すると、異音の原因になるだけでなく、キイの開きなどにも影響し、音程まで悪くなってしまう可能性があります。この場合はパーツ交換が必要なので、修理に出しましょう。
キイオイルが不足していませんか？	キイとポストの間などにキイオイルが不足すると異音の原因になる場合があります。キイオイルをさした後は、はみ出したオイルを拭きとるようにしましょう。
キイが変形して管体や 別のキイに当たっていませんか？	キイの部分をぶつけて曲げてしまったり、管体をぶつけてしまってゆがみが起きたりすると、異音の原因になるだけでなくキイの動作不良にもつながります。この場合は修理に出しましょう。
	ケースの中に楽譜のファイルなどを一緒にいれると、気づかないうちにキイを圧迫し曲がってしまうことがあります。ケース内側の小物入れに収納できる物以外は、入れないようにしてください。
ネジがゆるんでいませんか？	キイポストのネジがゆるんでいる場合は締め直しましょう。バランスネジなど、締めてはいけないネジもあるので注意が必要です。専門知識が必要になることがあるので、修理へ出すことをお勧めします。

キイ（タンポ）がくっつく、べたつく

タンポに水分や汚れが ついていませんか？	演奏後に管内の水分をよく取り除かないと、タンポのべたつきや劣化の原因となります。管体にスワブを通した後には、クリーニングペーパーなどを使用し、タンポに残った水分をよく取り除きましょう。バレルに近い音孔ほど水分がたまりやすいです。

組み立てがスムーズにできない

コルクグリスは塗りましたか？	ジョイントがきつい場合　→　使用していくうちに、コルクがなじんでつぶれてくる事を考慮しているので、新品の状態では少しきつめになっています。グリスをコルクに塗ってもきつい場合は、接合部の内側にも少量のグリスを塗ってみましょう。
コルクは劣化していませんか？	ジョイントがゆるい場合　→　使用していくとコルクが劣化して、だんだんゆるくなります。演奏中に動くほどゆるくなる前に、コルク交換の修理に出しましょう。
マウスピースを替えましたか？	付属品以外のマウスピースを使用する場合は、バレルに合わせてコルクの調整が必要な場合もあります。マウスピースと一緒に調整に出しましょう。

スワブが抜けなくなった。

スワブは広げて通しましたか？	スワブが丸まったり重なったりしたまま通すと、管内でつまってしまうことがあります。必ず広げてから通すようにしましょう。引っ掛かったと思ったら無理に引っ張らず、入れた方に戻して抜き、通し直してください。それでも抜けない場合は修理に出しましょう。

楽譜に書いてある音と実際に出ている音が違う

管楽器には移調楽器が多く、クラリネットもそのひとつです。「調子＝B♭」と記してあるクラリネットは「B♭管（ベー管）」と呼ばれ、記譜の「ド」（運指表どおり）を吹くと、実音では「シ♭（B♭）」の音がでます。通常、クラリネット用に書かれた楽譜を演奏するときに困ることはありませんが、その楽譜の音をピアノなどで確認するときや、ピアノや歌の楽譜（C調）を使って演奏するときには注意が必要です。

クラリネットのよくある質問

マウスピースやリガチャー、リードには種類があるのでしょうか？

付属のマウスピースやリガチャーは標準的なモデルを採用していますが、市販品には多くの種類があり、形や材質、吹き心地や音色もさまざまです。楽器に慣れてきたらいろいろと吹き比べ、ご自分に合うものを探してみるとよいでしょう。また、リードは厚みや種類で吹き心地や音色が異なり、同じ種類の中でも個体差があります。消耗品ですのでいろいろなものを試して、まず一番吹きやすいと感じるものを使用してみましょう。

修理に出したいのですがどうすればよいですか？

修理依頼の際はご購入いただいた販売店へお持ちください（通信販売等でご購入された場合も、販売店へご連絡ください）。また、弊社ホームページのフォームからも問い合わせいただけます。
保証期間の内外にかかわらず、保証書に所定事項（ご購入日、お名前、ご住所、販売店欄など）をご記入の上、添付してください。また、故障内容の詳細を明記し、お手入れ用品などの周辺小物、キイホルダーなどのアクセサリーはお手元で保管してください。有償修理となる場合は、楽器をお預かりの上で見積もりをご案内させていただきます。